

## 5 評価の実際と個に応じた指導事例

### ( 1 ) 本時重点的に取り上げた評価規準

イ - 道案内に必要な情報を得たり伝えたりする表現を場面に応じて適切に使うことができる。
--

### ( 2 ) 評価の実際

#### ・ 評価の方法

自分の近隣の地図を使って、自分の住んでいる地域をペアの相手に伝えるようすを観察する。

#### ・ 評価の決定

前時に習得した実現(Can you show me the way to the station? Go down the road for two blocks and turn to right. など)を駆使してペアの相手に伝えて、メッセージが伝わるように話していれば ( B 以上 ) と判断する。

### ( 例 1 )

A: I'd like to go to the cinema.

B: Sure. Go down the road until you come to the traffic light. Turn to the left and you can find a book store.

A: Well, let me see... Yes, I have found it.

B: Then go on to the next traffic light and...

### ( 例 2 )

A: Can you show me how to get to the post office?

B: Yes. Look at the map. We are just in front of the park. Go to the right until you find a big road. OK?

A: Yes. Cross the road?

B: No, turn left and you can see a tall building...

### ( 3 ) 個に応じた指導の実際

個の学習状況に応じた手立て

・ 習得した表現がスムーズに使えない、相手の質問にすぐに対応できない生徒に対して教科書の基本例文を暗記させてペアで練習させた。ALT にゆっくり質問してもらって、聞き取れたり自分の意図を通じさせたりすることができるという自信を持たせた。完全な文が作れなくても概要が伝わるような表現を心がけるように指導した。「その場に応じて適切に使うことができる」という評価規準を念頭において指導した。

単元を通じた継続的な手立て

ペア・ワークを充実させることが自信につながり、指導目標を達成することになる。教科書のモデルだけでなく、ALT の協力による地図の作成や教科書以外の活動を通してペア・ワークに取り組みさせ、飽きないように様々な活動を組み合わせて指導した。単元での習得目標が比較的明らかで、生徒自身でも練習しやすいので、自己評価表を作らせて動機付けの手段とした。